

アカデミックフェス 事後レポート

企画名： ドローン技術の人文・社会科学への応用と実践と課題&参加型デモ飛行

企画名（英語）： Application of drone technology to social sciences &
Participatory workshop for drone

時 間： 12：00～13：30

会 場： グローバルフロント グローバルホール

登壇者： 山内健治（政治経済学部教授）

阪井和男（法学部教授，日本ドローン振興協会会長）

井上武夫（ドローンサッカー協会）

開催概要：

近年のドローン技術の主に社会科学への応用の可能性を探るシンポジウムとドローンサッカーの体験飛行を通じたアイデア募集を意図し今後の可能性を探った。教室内では、現在日本のガバメントが構想している AI 社会とドローンの関わり、ドローンサッカーの普及と教育効果、ドローン撮影による平和学習ビデオの上映を行なった。

開催概要（英語）：

We have the meeting on application of drone technology to social sciences and Participatory workshop for drone.

開催内容：

近年のドローン技術の進歩や市民社会への普及を通じて、本企画では、理科系のみならず、人文・社会科学への応用を探るシンポジウムを通じて、広く来場者からアイデアを募集し、その可能性を探った。

まず、グローバルホールの教室内では、3人の演者によりプレゼンテーションを行なった。阪井和男（法学部教授・日本ドローン振興協会会長）は現在、我が国のガバナンスにより構想されている近未来の AI 社会の広報ビデオを紹介する中で、将来的なドローンと市民生活の関わりを紹介した。次に井上武夫（ドローンサッカー協会）は、韓国で地域おこしと連携しながら発展してきたドローンサッカーの背景を紹介した。韓国社会でのドローンの普及と共に、ドローンサッカーを通じた学校教育やクラブチームでの大会の現在をムービーで紹介する中で、ドローンと市民社会のスポーツの関係を発表し、また、ステージ上で、ドローンの実演も行った。コーディネーターの山内健治（政治経済学部）は、ゼミナールでの夏季合宿において使用したドローン撮影によるムービーを紹介しながら、文化系の教育・研究への可能性を探った。ゼミ学生との作品は、沖縄戦の戦跡記録のための景観、艦砲射撃や空爆の跡を上空から撮影しアーカイブするもので

あった。

さて、全体討論としては、現在、自然地理学・考古学に応用されるドローンの撮影と計測の技法をさらに拡大して芸術や都市景観学への可能性が探られた。

午後1時30分からは、アカデミーコモンのエントランス部分でドローンサッカーの実演を行ったが、小学生から年配の方まで、幅広くゲームに参加した。

以 上